

『瑜伽師地論』における方便善巧波羅蜜説について

清水海隆

『瑜伽師地論』（以下『瑜伽論』）は菩薩地行品において、勝解行地乃至到究竟地の菩薩の六地階位における修行として、波羅蜜多行・菩提分法行・神通行・成熟有情行の四菩薩行を説き、その内の波羅蜜多行では六波羅蜜・方便善巧波羅蜜・

願波羅蜜・力波羅蜜・智波羅蜜の十波羅蜜が示されている。

本論稿は、この十波羅蜜の後半四波羅蜜中の方便善巧波羅蜜について、具体的な説示の構造および菩薩地の他の所説との関係等を、『顯揚聖教論』・『大乘莊嚴經論』・『大乘阿毘達磨雜集論』等の関連する諸論書と比較・考察し、本件考察の方向性を提示するものである。

尚、平川彰博士の「六波羅蜜の展開」によれば、初期大乘經典の『般舟三昧經』や六波羅蜜説の先驅文献とされる『修行本起經』『普曜經』『方廣大莊嚴經』等において、六波羅蜜各支と「善權方便」とが並記され、方便善巧が六波羅蜜と同様に大乘菩薩行として重視されていたことが窺えるのである。³⁾

さて、四波羅蜜と六波羅蜜との関係については、『瑜伽論』撰決分中の『解深密經』地波羅蜜多品相当部分に示されている。

世尊 何因緣故 施設所余波羅蜜多 但有四數 善男子 与前六種波羅蜜多為助伴故 謂諸菩薩於前三種波羅蜜多所攝有情 以諸攝事方便善巧 而攝受之安置善品 是故我說方便善巧波羅蜜多与前三種而為助伴 若諸菩薩於現法中煩惱多故 於修無間無有堪能 羸劣意樂故 下界勝解故 於內心住無有堪能 於菩薩藏不能聞緣善修習故 所有靜慮不能引發出世間慧 彼便攝受少分狹劣福德資糧 為未來世煩惱輕微 心生正願 如是名願波羅蜜多 由此願故煩惱微薄能修精進 是故我說願波羅蜜多與精進波羅蜜多而為助伴 若諸菩薩親近善士聽聞正法如理作意為因緣故 轉劣意樂成勝意樂 亦能獲得上界勝解 如是名力波羅蜜多 由此力故於內心住有所堪能 是故我說力波羅蜜多與靜慮波羅蜜多而為助伴 若諸菩薩於菩薩藏已能聞緣善修習故 能發靜慮 如是名智波羅蜜多 由此智故堪能引發出世間慧 是故我說智波羅蜜多與慧波羅蜜多而為助伴。³⁾

ここでは「与前六種波羅蜜多為助伴故」とあり、四波羅蜜が六波羅蜜の助伴であるとされ、具体的には、方便善巧波羅蜜は布施・持戒・忍辱三波羅蜜の助伴であり、以下、願波羅蜜は精進波羅蜜の、力波羅蜜は靜慮波羅蜜の、智波羅蜜は般若波羅蜜の各々助伴であるとされる。そして、六波羅蜜各支と四波羅蜜各支との、とりわけ方便善巧波羅蜜に関しては布施・持戒・忍辱三波羅蜜との密接な関係が予想されるのである。

そして、右のような関係にある十波羅蜜各支の内容は、菩薩地行品においては次のように説かれている。

前說六種波羅蜜多 及方便善巧波羅蜜多 願波羅蜜多 力波羅蜜多 智波羅蜜多 如是十種波羅蜜多 總名波羅蜜多行 如前所說十二行相方便善巧 当知說名方便善巧波羅蜜多 如前所說五種大願 当知名願波羅蜜多 所有十力加行清淨 当知名力波羅蜜多 於一切法如実安立清淨妙智 当知名智波羅蜜多 今於此中能取勝義無分別轉清淨妙智 当知名慧波羅蜜多 能取世俗有分別轉清淨妙智 当知名智波羅蜜多 如是名為二種差別

ここで、四波羅蜜の内の方便善巧波羅蜜は十二行相方便善巧、願波羅蜜は五種大願、力波羅蜜は十力加行清淨、智波羅蜜は一切法における如実安立清淨妙智であり、慧波羅蜜と智波羅蜜に再分されるとされ、方便善巧波羅蜜が十二行相方便善巧を内容とするものであることが示されている。そして、

『瑜伽師地論』における方便善巧波羅蜜説について（清水）

『瑜伽論記』の相当部分によれば、これは菩提分品の内外各六種の十二種善巧である。

そこで、この菩提分品の所説を挙げると、次のようになる。

云何菩薩方便善巧 当知略説有十二種 依内修証一切仏法 有其六種 依外成熟一切有情 亦有六種
云何依内修証一切仏法六種方便善巧 一者菩薩於諸有情 悲心俱行願忍不捨 二者菩薩於一切行如実遍知 三者菩薩恒於無上正等菩提所有妙智 深心欣樂 四者菩薩願忍有情為依止故 不捨生死 五者菩薩於一切行如実遍知為依止故 輪転生死而心不染 六者菩薩欣樂仏智為依止故熾然精進 当知是名依内修証一切仏法六種方便善巧
云何依外成熟一切有情六種方便善巧 一者菩薩方便善巧 能令有情以少善根感無量果 二者菩薩方便善巧 能令有情少用巧力引攝广大無量善根 三者菩薩方便善巧 於仏聖教憎背有情除其悲惱 四者菩薩方便善巧 於仏聖教處中有情令其趣入 五者菩薩方便善巧 於仏聖教已趣入者令其成熟 六者菩薩方便善巧 於仏聖教已成熟者令得解脫（中略）
云何菩薩方便善巧 於仏聖教憎背有情除其悲惱 處中有情令其趣入 已趣入者令其成熟 已成熟者令得解脫 謂諸菩薩為欲成弁如是四種有情義理 当知略説復有六種方便善巧 一者隨順會通方便善巧 二者共立要契方便善巧 三者異分意樂方便善巧 四者逼迫所生方便善巧 五者施恩報恩方便善巧 六者究竟清淨方便善巧

『瑜伽師地論』における方便善巧波羅蜜説について（清水）

ここで、十二行相方便善巧の所説の構造は、「依内修証一切仏法六種方便善巧」と「依外成熟一切有情六種方便善巧」に大別される。これは、『菩薩地持經』では「為起内仏法六種巧方便」「為外成熟衆生六種巧方便」とされ、菩薩が自己において仏法の完全な知識を修得する方便善巧と、対外的に衆生を成熟せしめる方便善巧である。そして、修証仏法の方便善巧とは、第一に悲心をもって衆生に顧恋し、第二に一切行を如実遍知し、第三に無上正等菩提を求め、第四に衆生を顧恋して生死を捨てず、第五に一切行を如実遍知して無染心をもつて輪転生死し、第六に仏智を求めて熾然精進する六種である。ここで修証仏法の方便善巧は、基本的な前三と、そこから導き出される後三という構造にあると言えよう。これに対し、成熟衆生の方便善巧とは、第一に少善根をもって無量果を起させ、第二に少功力をもって無量善根を起させ、第三に仏教を憎背する衆生の慧悩を除き、第四に処中の衆生をして仏法に趣入せしめ、第五に已趣入の衆生をして成熟せしめ、第六に已成熟の衆生をして解脱を得せしめる六種であり、また第三の憎背衆生の慧悩を除く以下の四種の方便善巧を再構成して、随順会通方便善巧・共立要契方便善巧・異分意案方便善巧・逼迫所生方便善巧・施恩報恩方便善巧・究竟清淨方便善巧の六種方便善巧を立てている。これから、成熟衆生の方便善巧は、実質的には六項目中の後段四項目を開い

て六項目とし、総じて八項目を説く構造になっている。そして、全体的には、修証仏法三項目・成熟衆生八項目の合計十一項目が説かれているのである。

さて、今『瑜伽論記』の指摘により、『瑜伽論』の方便善巧説として菩提分品の所説を見たが、この他に『瑜伽論』は分品にも、次のような十種方便善巧説を説いている。

云何菩薩方便善巧 当知如是方便善巧略有十種 何等為十一者
憎背聖教有情除其慧悩方便善巧 二者処中有情令其趣入方便善巧
三者已趣入者令其成熟方便善巧 四者成熟者令得解脱方便善巧
五者於諸世間一切異論方便善巧 六者於諸菩薩淨律儀受持毀犯能
正觀察方便善巧 七者於諸正願方便善巧 八者於声聞乘方便善巧
九者於独覺乘方便善巧 十者於其大乘方便善巧

如是一切方便善巧 如前即此菩薩地中随彼彼已広分別 如应当
知 如是十種菩薩所有方便善巧 能作五事 謂由前四種方便善巧
令諸菩薩能正安立所化有情於自義理 由於世間一切異論方便善巧
令諸菩薩善能摧伏一切異論 由於菩薩淨戒律儀受持毀犯 能正觀
察方便善巧 令諸菩薩不犯所犯 犯已速疾如法悔除 於善清淨菩
薩所受淨戒律儀能善修學 由於正願方便善巧 令諸菩薩能証当来
一切所受事義圓滿 由於三乘方便善巧 令諸菩薩於諸有情随其種
性根及勝解 說相称法 說順正理 是名十種方便善巧 令諸菩薩
能作五事 由此五事 能令菩薩現法当来一切事義皆得究竟

ここでは、十種方便善巧として第一に仏教を憎背する衆生の慧悩を除く方便善巧、第二に処中衆生を仏法に趣入せしめ

る方便善巧、第三に已趣入衆生を成熟せしめる方便善巧、第四に已成熟衆生に解脱を得せしめる方便善巧、第五に世間の異論を摧伏せしめる方便善巧、第六に戒律を受持し已犯者を悔除して戒律を受持せしめる方便善巧、第七に未來世に所欲を得る方便善巧、そして第八・第九・第十に衆生の種性と根と勝解に應じて三乗の相應する説法をし、具足せしめる三種方便善巧の合計十種が挙げられる。そして、これらは既に菩薩地中に説かれるとされるが、この内の前四種方便善巧は菩提分品の成熟衆生の六種方便善巧の第三の憎背衆生の悲惱を除く以下の四種方便善巧と全く同一であり、また、第五乃至第十の六種方便善巧と菩薩地の各所説との関係は、諸注釈書を参考にするならば、次の通りである。既ち、第五の世間異論を摧伏する方便善巧は菩提分品中の「善知諸論」に対応し、以下第六の戒律受持の方便善巧は戒品の所説に、第七の未來世に所欲を得る方便善巧は菩提分品中の五種の「菩薩所修正願」に、そして第八・第九・第十の三乗相應の説法・具足の三種方便善巧は菩薩功德品の四種施設建立段中の「乗施設建立」に、各々対応していると言え、菩提分品を中心として戒品・菩提功德品・分品に及んでいる。

ここで、十二種方便善巧、十種方便善巧、および十種方便善巧との菩薩地の所説との関連を簡略に示すと、以下のようになる。(271ページ参照)

ここで、上段が菩提分品の十二種方便善巧、下段が分品の十種方便善巧であり、枠および線で指示された部分が関連する所説、分品項目の下の括弧内が菩薩地の関連箇所である。さて、次に、『瑜伽論』と関連する諸経論における方便善巧波羅蜜について見たい。

まづ、初めに『華嚴經』は離世間品において十波羅蜜を説くが、そこには方便善巧波羅蜜の名称はなく、四波羅蜜の項目としては智・願・神通・法波羅蜜が示されている。

次に、『顯揚聖教論』は摂事品において六波羅蜜および善巧・願・力・智波羅蜜の十波羅蜜を説くが、その善巧方便波羅蜜の所説は以下の通りである。

第七善巧方便波羅蜜多 謂諸菩薩摩訶薩以此方便 或由隨順 或由違逆 或由不同意樂 或由作恩報恩 或由威逼 或由清淨 以三種利益攝諸有情 於種種善處令受令調 令安住令成立。

ここで、善巧方便波羅蜜は隨順・違逆・不同意樂・作恩報恩・威逼・清淨によって衆生を利益し、善處において受けしめ、調せしめ、安住せしめ、成立せしめるとされる。これは项目的には、菩提分品の衆生成熟の方便善巧の隨順會通方便善巧乃至究竟清淨方便善巧の、再構成の六種方便善巧と同様のものである。しかし、それ以上の詳説は見出し得ない。

また、『大乘莊嚴經論』は覺分品において次のような五種巧方便を説いている。(272ページに続く)

『瑜伽師地論』における方便善巧波羅蜜説について（清水）

【菩提分品の十二種】

【分品の十種】

〔依内修証一切仏法〕

1 於諸有情悲心俱行願恋不捨

（4 願恋有情為依止故不捨生死）

2 於一切行如実遍知

（5 於一切行如実遍知為依止故輪轉生死而心不染）

3 恒於無上正等菩提所有妙智深心欣樂

（6 欣樂仏智為依止故熾然精進）

〔依外成熟一切有情六種方便善巧〕

1 方便善巧能令有情以少善根感無量果

2 方便善巧能令有情少用功力引攝廣大無量善根

3 方便善巧於仏聖教情背有情余其悲惱

4 方便善巧於仏聖教處中有情令其趣入

5 方便善巧於仏聖教已趣入者令其成熟

6 方便善巧於仏聖教已成熟者令得解脫

1 憎背聖教有情除其悲惱方便善巧

2 處中有情令其趣入方便善巧

3 已趣入者令其成熟方便善巧

4 已成熟者令得解脫方便善巧

5 於諸世間一切異論方便善巧（↓菩提分品・善知諸論）

6 於諸菩薩淨戒律儀受持毀犯能正觀察方便善巧（↓戒品）

7 於諸正願方便善巧（↓分品・五種正願）

8 於声聞乘方便善巧（↓菩薩功德品・乘施設建立）

9 於獨覺乘方便善巧（↓）

10 於其大乘方便善巧（↓）

- | |
|------------|
| 1 隨順會通方便善巧 |
| 2 共立要契方便善巧 |
| 3 異分意樂方便善巧 |
| 4 逼迫所生方便善巧 |
| 5 施恩報恩方便善巧 |
| 6 究竟清淨方便善巧 |

次得菩薩修習五種巧方便 偈曰 自熟与成生 速果并作業 生死道不絶 說此為五巧

釈曰 五種巧方便者 一自熟仏法 以無分別智 為巧方便 二成熟衆生 以四摂法 為巧方便 三速得菩提 以懺悔隨喜請転法輪生起勝願 為巧方便 四作業成就 以二門為巧方便 二門者謂陀羅尼門及三昧門 以此二門能成就利益衆生業故 五生死道不絶 以無住処涅槃 為巧方便³

ここでは、善巧方便として、仏法を熟する無分別智、衆生を成熟する四摂法、菩提を速得するために懺悔・隨喜し、転法輪を請い勝願を起こす、作業を成就する陀羅尼門・三昧門の二門、生死道を断ぜざる無住処涅槃の五種を挙げ、これらにより自他の一切の利益を成就すると説く。しかし、この五種巧方便説からは、十二種方便善巧説との直接的な関連を見出し得ない。即ち、項目的には仏法を熟する方便善巧が、十二種方便善巧説の仏法修証の六種方便善巧と対応し、衆生を成熟するための方便善巧が、十二種方便善巧説の衆生成熟の六種方便善巧と対応するとも考えられるが、内容的には兩者の間の対応関係は想定し得ない。

最後に、『大乘阿毘達磨雜集論』は得品において四種方便善巧を説く。

方便善巧者 略有四種 一成熟有情善巧 二円満仏法善巧 三速証神通善巧 四道無断善巧

『瑜伽師地論』における方便善巧波羅蜜説について(清水)

成熟有情善巧者 謂四摂事 由摂受彼令処善法故 円満仏法善巧者 謂慧波羅蜜多 如経言 若菩薩摩訶薩欲得円満施波羅蜜多乃至一切種妙智性 当学若般波羅蜜多故 速証神通善巧者 謂日夜六時發露諸惡 隨喜功德 勸請諸仏 廻向善根等 広説如聖者弥勒所問経 道無断善巧者 謂無住処涅槃 由此数数究竟 無断周遍十方一切世間 随所応化 示現一切仏菩薩行^④

ここでは、成熟有情善巧・円満仏法善巧・速証神通善巧・道無断善巧の四種を挙げ、成熟有情善巧は四摂事、円満仏法善巧は般若波羅蜜、速証神通善巧は發露諸惡・隨喜功德・勸請諸仏・廻向善根、道無断善巧は無住処涅槃とする。これは『大乘莊嚴經論』の「五種巧方便」の中より作業成就の陀羅尼門・三昧門の二門を除いた四種にはば対応すると考えられ、同一系統の所説と言えよう。

以上、『瑜伽論』と関連する『華嚴經』『顯揚聖教論』『大乘莊嚴經論』『大乘阿毘達磨雜集論』の所説を見た。特に『顯揚聖教論』は衆生成熟の六種方便善巧の再構成部分のみの踏襲ではあるが、項目的には、そこに両論所説の明確な関連性が見れると言えよう。しかし、『顯揚聖教論』以外の経論には『瑜伽論』との直接的な関連は見出されず、その二種方便善巧に関する示唆を与え得ない。ただ、『大乘莊嚴經論』・『大乘阿毘達磨雜集論』に説かれる「成熟衆生(成熟有情善巧)」は、前出の摂決択分における「以諸摂事方便善巧 而

『瑜伽師地論』における方便善巧波羅蜜説について（清水）

摂受之安置善品¹³』との関連において考慮する必要があるだろう。

そこで、以上を整理するならば、次のようになるだろう。すなわち、『瑜伽論』の四菩薩行中の波羅蜜多行の方便善巧波羅蜜については、論所説に不統一が見られることを確認した。

そして、『瑜伽論』の異形式の二種方便善巧の内、第一の菩提分品説は利他行の自己の内部における展開と、対外的な、正に利他的な展開の両面からの記述であり、また、第二の分品説は主として利他行の対外的展開の側面からの記述であると言えよう。そして両者は、憎背有情の慧悩を除く以下の四種方便善巧において共通し、また、その共通部分を再構成した随順会通方便善巧乃至究竟清淨方便善巧の六種方便善巧のみが、『顯揚聖教論』に見い出される。特に四種共通項目は、衆生成熟すなわち利他行の対象の継続的な向上を明かすものであり、菩薩の修行の階立との関係を予想させるものであろう。

それ故、『瑜伽論』において菩薩行として述べられる「方便善巧」の位置から考えて、衆生の継続的な向上を予想せしめる基本箇所において共通する四方便善巧および再構成六方便善巧に、『瑜伽論』の方便善巧説整理の契機があり、これと菩薩の階立との関係および他の『瑜伽論』所説との関係等の考察の必要があるとの方向性を提示して論を閉じることとしたい。

- 1 平川彰稿「六波羅蜜の展開」（『印仏研究』二一巻二号 昭和四八年三月）、2 『瑜伽論』卷第七八 撰決摂分菩薩地（大正三〇・七三一a）、3 『瑜伽論』卷第四九 菩薩地行品（大正三〇・五六五c）、4 「其方便等四居前六助伴 此が一番 言如前説十二行相方便善巧者 謂如前菩提分法中明内外六十二種善巧也」（『瑜伽論記』卷第十二下 大正四二・五八一b~c）、5 『瑜伽論』卷第四五 菩薩地菩提分品（大正三〇・五四〇a~五五二c）、6 「云何菩薩巧方便 略説十二種 為起内仏法有六種 為外成熟衆生有六種」（『菩薩地持經』卷第七 大正三〇・五三〇a）、7 『瑜伽論』卷第四七 菩薩地分品（大正三〇・五五一a~b）、8 「解方便善巧中 云如前即此菩薩地中等者 前四如十二方便中説 第五如因明処中 第六如戒 第七如五願中 後三文処非一 近如菩提分品中説 隨其種姓根等者 三藏云種子名姓 現行名根」（『瑜伽論記』卷第十一 大正四二・五六二c~五六三a）、「隨彼彼処已広分別 如応当知者 此中前四方方便善巧 如前菩提分品説有六種成熟有情方便應知 又説善知諸論即此第五方便善巧 又戒品説菩薩戒波羅蜜多即此第六方便善巧 又菩提分品中説菩薩所修正願即此第七方便善巧 功德品説乘施設建立即此後三方方便善巧」（『瑜伽師地論科句披尋記彙編』一五五八~九）、9 「仏子 菩薩摩訶薩有十種波羅蜜 何等為十（中略）智波羅蜜 入仏力故 願波羅蜜 滿足普賢諸大願故 神通波羅蜜 示現一切自在用故 法波羅蜜 普入一切諸仏法故 是為十」（『大方広仏華嚴經』卷第五三 大正一〇・二八二b~c）、10 『顯揚聖經論』卷第三 撰事品（大正三一・四九二a~b）、11 『大乘莊嚴經論』卷第十一 覓分品（大正三一・六四五a~b）、12 『大乘阿毘達磨雜集論』卷第十四 得品（大正三一・七六四a）、13 註2 參照
- ハキーワードV 波羅蜜・方便善巧・『瑜伽論』

（立正大学短期大学部助教授）